

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 3
2012.11

連載

「高麗川プロジェクト」発展

特集1 水田美術館 ～1年間の活動軌跡～

特集2 学生、動く —— 自主活動の現場から

巣立つ城西人、 新しい城西人

今年の秋もまた、城西大学は仲間を送り出し、そして新しい仲間を迎えました。9月にとり行なわれた学位記授与式と入学式の様子をご紹介します。

2012.9.28
学位記授与式
入学式

夢、志をもって

爽やかな秋風が感じられるようになってきた2012年9月28日(金)、秋季の学位記授与式と入学式が、坂戸キャンパス清光ホールでとり行われました。この日、中国やハンガリー、韓国から来た留学生などを主とした総勢94名が城西を巣立ち、25名が新たに城西の仲間になりました。



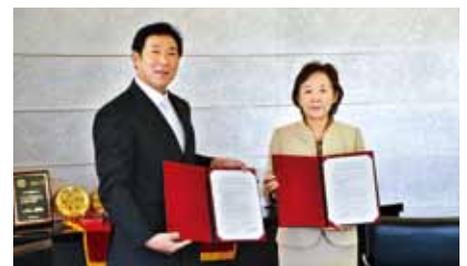
秋季卒入学式

ホールは学生たちや教職員、この日のために中国から来日されたご父母の方々などで一杯となり、水田宗子理事長や森本雍憲学長、来賓の方々からの祝いと励ましの言葉に聞き入っていました。卒業する学生も入学する学生も、それぞれ夢や志をもって日本や世界で活躍しようとしています。城西大学の関係者一同はこれからも、彼らを見守っていきます。

2012.9.28
毛呂山町との
地域連携協定
調印式

一層の地域活性化へ

城西大学は埼玉県毛呂山町と、地域連携協定を結び調印式をとり行いました。毛呂山町には、城西大学の最寄り駅となる東武越生線川角駅があり、以前より深い親交を持っています。また毛呂山町は豊かな自然と歴史を持ち、全国的な柚子の産地として有名です。



調印式のために来学された井上健次毛呂山町長(左)と水田理事長

今後、両者の交流や連携活動がますます深まり、より一層の地域活性化などに繋がっていくことが期待されています。

目次

- 02 [ニュース] 巣立つ城西人、新しい城西人
学位記授与式／入学式
- 03 特集1
水田美術館
～1年間の活動軌跡～
- 04 [連載]
「高麗川プロジェクト」発展
- 06 特集2
学生、動く
——自主活動の現場から
- 08 [シリーズ]
浮世絵／食事設計／JOSAI・JINZAI
- 10 [ニュース]
- 14 [紀尾井町ニュース]
- 15 [エリア紹介]
鶴ヶ島市 伝統文化と自然が活きる市
坂戸市 「坂戸の大宮住吉神楽」
東武線沿線情報 川越ウォーキング
- [城西歳時記]
2012年11月～2013年2月
城西大学の主な行事予定

題字：創業者 水田三喜男 先生

今号の 表紙

現代政策学部の石井ゼミでは、休耕地を活用したプロジェクトを展開しています。坂戸キャンパス近くの休耕地で流した学生たちの汗はさまざまな企画・商品として結実し、地域・社会へと還元されています。



特集1

水田美術館 ～1年間の活動軌跡～

城西大学水田美術館は、本学創始者の水田三喜男先生が生前に収集された浮世絵コレクションを母胎とし、日本の文化発展に寄与することを目的として、1979年に水田記念図書館棟8階に創設されました。現在の水田美術館は、城西大学創立45周年記

念事業の一環として新たに2011年12月に、独立した建物として開設しました。以来、展示ギャラリーが増えたメリットも活かしながら展開してきた、約1年間の主な活動をご紹介します。

最新の企画展 2012年9月19日(水)～10月20日(土) / ギャラリー1、2

高円宮妃久子殿下特別展 —空翔ける鳥、旅する根付—

この特別展は、城西大学の創立記念事業の一環として企画されました。高円宮妃久子殿下がこれまで撮影されてきた、野鳥の写真28点と根付の写真23点を選びすぐって展示するとともに、妃殿下の根付コレクションの中から現代根付69点を展示しました。



高円宮妃久子妃殿下は、バードウォッチングをご趣味とされ、国内外を旅行される折には鳥たちの一瞬の姿をカメラのファインダーにおさめてこられました。また、NGOバードライフ・インターナショナルの名誉総裁として、鳥類環境保全を訴え続けておられます。さらに妃殿下は根付を宮邸の庭や国内外の色々な場所に連れ出し、自然の中に置いて撮影した写真を「旅する根付」シリーズとして発表されています。

また、9月18日(火)には本学にて、根付のコレクター・研究者としても功績を上げられてきた妃殿下により、「根付の魅力—手のひらの宇宙に魅せられて—」と題された展覧会オープニングご講演が行われました。

2012年3月22日(木)～5月19日(土) / ギャラリー1

浮世絵版画のできるまで展

浮世絵は、江戸時代初期から明治時代前半にかけて大流行した、質の高い大衆芸術です。浮世絵の主な表現形式は木版画で、版元・絵師・彫師・摺師により作り上げる、一種の総合芸術と言えます。本展では、そうした技巧面に焦点を当て、浮世絵版画がどのように制作されるのかを、摺の工程を中心に、版木や道具・絵具類などと共に紹介しました。併せて、アダチ版画研究所制作の浮世絵名品複製版を展示し、摺り実演会(同研究所)も開催しました。



2012年3月22日(木)～4月19日(木) / ギャラリー2

キュリー夫人展 —ポーランドが生んだ女性科学者、今なお光輝く理由—

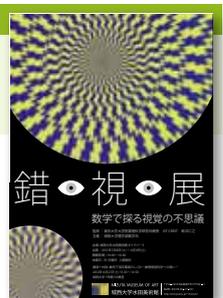
2011年は、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞100年目に当たる年でした。理学部・薬学部を持ちポーランドに学术交流協定校のある本学では、ノーベル賞に2度輝いたポーランド出身の女性科学者キュリー夫人の偉業や、放射能の研究と医学への応用に情熱を傾け人類の幸せを願った夫人の生き様を紹介する、パネル展を開催しました。



2012年5月8日(火)～6月16日(土) / ギャラリー3

錯視展 —数学で探る視覚の不思議—

本誌12頁に別途掲載していますので、そちらをご覧ください。



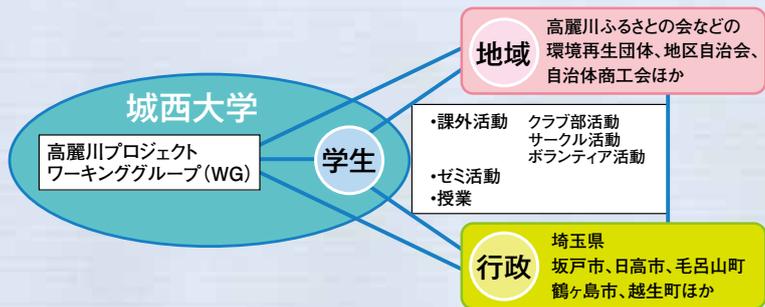
■城西大学水田美術館

http://www.josai.ac.jp/~museum/
開館時間：午前10時～午後4時 / 休館日 日・月・祝日
お問い合わせ：Tel.049-271-7327

連載

「高麗川プロジェクト」発展

城西大学と縁の深い高麗川周辺にて実施している一連の活動が「高麗川プロジェクト」として統合され、大きな展開を見せています。概要や進捗状況などについて、副学長の白幡晶教授から話を聞きました。



「高麗川プロジェクト」活動統合の意義と目的

城西大学にとって高麗川は、その流れを学歌に謳い、学園祭の名称を「高麗祭」としてきたように、創立当初より学生たちの心の拠り所となっています。

近年では広報誌2号でご紹介したように、高麗川に関わる教育プログラムを数多く実施しています。さらに2012年3月から、学生たちが自主的に清掃ボランティアを開始しました。

城西大学はこれらの活動を統合し、地域との連携に基づく教育活動や、地域活性化や共同体意識の啓発を支援・推進することを目的とし、2015年の創立50周年に向けて「高麗川プロジェクト」を策定しました。2012年6月12日には埼玉県議会議員をはじめ多くの関係者の出席のもと、発会式をとり行いました。本プロジェクトを通じて学生と地域の方々が高麗川をふるさとの川として誇りに思い、この地域に豊かな自然環境の再生活動が広がることを目指します。

今後の展開と地域・行政とのネットワークづくり

本プロジェクトは学生の自主的な活動に重点をおきますが、ゼミや授業の中での活動も含まれるので、多様な活動になることを予想しています。

今後の高麗川プロジェクト活動テーマ

課外活動

- ・高麗川清掃ボランティア
- ・野鳥観察
- ・高麗川に生息する生物、植物の調査や記録
- ・歴史、遺跡調査
- ・その他

ゼミ・授業

- ・地域の祭り支援
- ・耕作放棄地における農作物の栽培と利用
- ・地域特産物の製品化
- ・水質調査
- ・生物学的調査
- ・遊歩道マップ、自然マップ等の作成
- ・その他

本学はこれまでも地域との連携実績を蓄積してきましたが、今後はさらに高麗川プロジェクトWGが積極的に新しいネットワークをつくっていきます。

*学内の水田美術館ギャラリー3でプロジェクトの全容を紹介する展示も開催しました。

■ 本プロジェクトに関する問い合わせ先

城西大学「高麗川プロジェクト」事務局
Tel : 049-271-7712
Fax: 049-271-7947

「高麗川プロジェクト」の運営と計画

城西大学の全学部および主要な事務局の代表から成る「高麗川プロジェクト・ワーキンググループ(WG)」により運営されます。学生の活動支援を中心にプロジェクトを推進し、軌道に乗れば学生もWGへ参加します。主に以下のような活動展開を考えています。



休耕地でハーブを収穫する学生たち

活動計画

- ▼課外活動・ゼミ・授業を問わず、高麗川プロジェクトの趣旨に添った学生活動の募集
- ▼高麗川プロジェクトとして認定された活動メンバーへの、プロジェクトTシャツ配布と活動支援
- ▼地域・行政の高麗川情報に関する講演会の開催など、定期的な情報共有の場づくり
- ▼年1度の活動報告会の開催と優秀活動の顕彰
- ▼創立50周年記念高麗川シンポジウム(2015年)の開催



プロジェクトTシャツを着て発会式に参加する学生

城西大学休耕地活用プロジェクト2012春～夏

現代政策学部・経済学部・薬学部で進めている「城西大学休耕地活用プロジェクト」の中より、2012年春～夏に行われた活動を2件、ご紹介します。

指導にあたる、経済学部・末永啓一郎准教授と現代政策学部・石井雅章准教授から話を聞きました。

● 「ルーコラパスタ」の開発・販売

経済学部・末永ゼミ

経済学部・末永啓一郎准教授のゼミの学生たちが企画・プロデュースし、薬学部・医療栄養学科の管理栄養士の卵サークルDHAと新食堂とで共同開発した「ルーコラパスタ」が、6月18日～8月3日の間、坂戸キャンパスの新食堂で販売されました。このメニューは坂戸市がブランド化しようとしている「さかどルーコラ」(正式名称:ルーコラ・セルバーティカ)を使用していますが、ルーコラには貧血の予防に効果的な葉酸などが多く含まれており、美容と健康に良い食事としてもアピールしています。

「さかどルーコラ」は、坂戸市の農家の方が栽培しているものを中心に、学生たちが栽培したものも使用しました。高麗川流域

にある耕作放棄地でルーコラの栽培を行い、さらに発展させるための研究が続けます。栽培活動を通して、地域の方々や学生が会話する機会も増え、相互の信頼関係も構築してきました。

このプロジェクトでは、学生自らが坂戸市

の休耕地を活用して栽培し、農作物の活用方法を考え、休耕地問題の解消に取り組んでいます。農業問題や地域の問題、流通や経営の問題を考えるとともに、学生の社会人基礎力を育成する事を目指しています。



栄養たっぷりのルーコラパスタ



休耕地を耕す学生たち

● オール埼玉ブランド日本酒づくり「醸彩 滝不動」

現代政策学部・石井ゼミ

現代政策学部・石井雅章准教授のゼミでは、課題解決型教育(PBL)の一環として、休耕地を活用する様々なプロジェクトを進めています。広報誌2号で紹介した「情熱カレー」製品化などに加え、「オール埼玉ブランド」の日本酒づくりにも取り組み「醸彩 滝不動」を完成させました。

これは、坂戸市にある城西大学のゼミ学生たちが、坂戸市の休耕地を地元農家の指導にて活用し、埼玉県開発の酒造好適米「さけ武蔵」を栽培し、毛呂山町「麻原酒造」で酒造りに取り組み、坂戸市の酒店「ほりこし商店」を通じて、坂戸市・鶴ヶ島市の飲食店「海」「いちき」などで提供する、地域の様々な方々との連携・協力が形になったオール埼玉ブランドの日本酒です。

本プロジェクトは、城西大学学長所管研究奨励金及び埼玉県「農との共生田園都市豊かなくらし満喫事業」からも支援を頂き

実現しました。2012年6月17日(日)には坂戸市文化会館との共催でお披露目イベント「日本酒を楽しもうin坂戸」を開催し、埼玉出身の書道家矢部澄翔先生に「醸彩」の文字を書いて頂き、大学のオープンキャンパス時にも展示しました。

「醸彩」というシリーズ名は、学生たちのアイデアで「城西」から韻をとり、彩の国埼

玉生まれという事と、地域の方々とのつながり(彩り)から醸し出された成果という意味も込め、名づけました。

今後も、プロジェクトを地域の方々と共に継続発展させていくと共に、学生には現実的なテーマに取り組むことで、企画力・協調性・交渉力、そして生きる力をつけてもらう事を目標にしています。



稲刈りする学生たち



醸彩のお披露目～日本酒を楽しもう in 坂戸～

特集2 学生、動く——自主活動の現場から

夢と志を持ち、活動を大きく発展

城西大学では、学生が自主的に様々な活動を展開しています。学部ごとに組織されたものやサークル組織など、その形式や内容は色々あり、学び内容と直結したものからボランティアまで多岐にわたります。その中から、いま大きな発展を見せ活動が全学そして学外へと広がりつつある幾つかの活動について、参加している学生から話を聞きました。その一端を紹介します。

高麗川の清掃ボランティア活動

地域や社会に役立つことを

学部を越えた学生ネットワークで、複数の学部の学生が一緒にボランティア活動を始めました。彼らは、様々な学部やサークルなどから集まった有志で、2012年3月から具体的な活動を開始しました。自分たちの力でできる、地域や社会に役立つ事は何かと色々考えた末、まずは身近にある高麗川をきれいにしようと、清掃活動にチャレンジする事にしたのだそうです。

地味で根気のいる作業ですが、彼等はこの活動を継続させ意義や成果を生み出していくために、自分たちで考え、企画を組み立て、作業の準備をしています。その際、大学の教職員や地元自治体そして地域の方々のアドバイスやサポートを受けて、活動を安全に行い、地域とのより良い連携関係ができることを目指しています。

川の中や河川敷のゴミは無尽にあり、作業は果てしなく感じられますが、学生たちはあきらめず真摯にゴミを拾い続けます。彼らを



4月の清掃活動に参加した学生たち

駆り立てるのは、自分が通う大学がある地域を少しでも良くしていきたいという気持ち、そして地域の一員として役に立てる誇りと喜びなのではないでしょうか。橋の上からの「ありがとう、頑張っ」が、作業中の学生にとって最上の励ましになっていました。

この活動を長く継続させ、高麗川の環境整備の一端を担う活動にまで成長させたい——彼らの夢と志は大きく広がり、人間的にも成長を続けています。

まとめ役として活動を牽引している、経済学部2年の大内田淳さんと、薬学部3年の江口武幸さんに、これからやりたい事、目指していること等について聞きました。

学生インタビュー

大内田 淳さん（経済学部2年）

活動に大勢の学生たちが参加してくれるようになったので、今後は皆がもっと活動しやすいように組織体制や運営方法などを整えていきたいと考えています。また、参加してくれる学生、特に1～2年生が活動を楽しみながら成長し、さらにリーダーシップを発揮できるように、これからは後続の彼らをサポートしていきたいと思っています。

江口 武幸さん（薬学部3年）

高麗川清掃活動、野鳥探索と活動してきてまず感じたことは、地域の人々の温かさでした。高麗川掃除のときは、様々な人に声をかけて頂き、「高麗川ふるさとの会」との野鳥探索では、色々なことを教えて頂きました。私はこの活動を地域と大学をつなぐ架け橋とし、これまで以上に地域の活性化に貢献していきたいと思っています。

高麗川プロジェクトとしての展開

清掃活動から野鳥観察まで

このボランティア活動は、前頁で紹介した「高麗川プロジェクト」の一つとして展開しています。ワーキンググループの支援も受け対外的な連携が深まり、清掃活動に加え自然環境再生に関わる様々な活動も、新たな展開を見せ始めています。そのうちの 하나가、「高麗川野鳥の会(略称:こまちょう)」の活動です。高麗川の良好な水辺環境の修復・保全を願う市民の有志で作られた「高麗川ふるさとの会」から、野鳥観察に関するアドバイス等を頂き、高麗川流域の自然や鳥その他動物の生息状況について学生の手で調べてまとめてみるなど、色々な企画に取り組み始めています。この他にも、学生たちの動きはどんどん活発化しています。

まとめ役として活動を牽引している、経営学部2年の庭野涉さんに、これからやりたい事、目指していること等について聞きました。



高麗川の粗大ゴミを回収する学生たち



回収したゴミの山



河川敷を清掃する学生たち



活動のまとめ役: 左から江口さん、庭野さん、大内田さん

学生インタビュー

庭野 涉さん(経営学部2年)

私たちの活動は、学生一人ひとりが自分の成長の場として目標を持ち、積極的に取り組むことで成り立っています。そして少しでも地域に貢献できるように様々な活動を考えています。今後はボランティア活動だけではなく、学生の自主性に基づく地域交流の場として、一つのコミュニティの様なものになっていけばと願っています

英語ディベート活動

あふれるチャレンジ精神

学部の枠を越えてサークルをつくり、英語漬けの日々を送っている学生たちがいます。彼らの活動は、単に英語が上達することを目指しているのではなく、英語でディベートが出来るようになること。この二重のハードルに立ち向かい、日々研鑽を重ねています。サークルの広報担当になる、理学部数学科4年の小林優花さんに、活動について話を聞きました。

彼らの活動が始まったのは、昨年2011年でした。もともと城西大学は、留学や外国語の学びを奨励する気風のある大学で、またディベート学習を取り入れている学部学科やゼミもあります。その中でも特に英語やディベートが好きな仲間が自然と集まり一緒に練習を始めました。彼らが練習しているのは、本場アメリカで最も歴史のあるディベートトーナメント<National Debate Tournament>のスタイルで、その略称を用いて「NDTスタイル」と呼ばれる形式のディベートです。そして実力を高めるために、学生対象の英語ディベート大会などへ参加して、早稲田や立命館など他大学の強豪チームと熱い戦いを繰り返しています。ディベート大会はチーム競技であるため、仲間の信頼関係やコミュニケーション構築も大切に



ディベート大会に向けて図書館で猛練習中の、経済学部2年の渡邊由樹さんと矢作大さん、経営学部2年の増田凌さん、そして広報担当の、理学部数学科4年の小林優花さん

なってきます。

初めて参加した大会では思うような成績が出せませんでした。その悔しさがバネになり、練習に一層の熱が入り、大会成績も向上しています。ディベートは限られた時間の中での勝負。瞬時に相手の言う事を理解し、こちらの論を組み立て切り返していかなければなりません。頭の回転が良くなり、仲間とのコミュニケーションの取り方も身に着き、さらには英語力も高まる活動なのです。

サークルのメンバーは10人程度とまだ少ないですが、そのうちの何人かが必ず、毎日夜9時まで活用できる大学の図書館に集まって練習しています。仲間の自宅に場所を移してさらに練習し、気がつくとき深夜になっている事もしばしば。それでも好きなことをやっているのが苦にならず、むしろ1日が24時間では足りないというほど、向上心にあふれた学生が集まっているサークルです。

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創業者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえない歴史の懐しさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『橋下の釣』 喜多川歌麿

釣りを楽しむ若い男女が描かれる。長大判の縦長の画面をいかし、橋げた、釣竿を掲げる女性、杯を洗う男性の伸ばした腕、水面に映る影を垂直線上に積み上げる。その上に、男の影と釣竿、それぞれが点対称となる弧を描いて重なる巧みな構成となっている。抑えられた色調の中に、黒の弁慶縞が目を引く粋な作品である。

釣りは、江戸時代に入り世の中が平穏にな

るにつれ、食料確保のための漁としてのものから、次第に趣味や娯楽としても行われるようになり、各地で盛んに行われる様になった。江戸では元禄年間(1688～1703年)より趣味としての釣りが武士の間で盛んになり、後期・天明年間(1781～1789年)以降は町民や女性も釣りを大いに楽しむようになった。主に海釣りが行われたが、川釣りも人気があったようだ。



長大判絵巻／寛政12年(1800年頃)

食事設計

～薬学部医療栄養学科より～

薬学部医療栄養学科では、栄養学に裏打ちされた食事設計の重要性を発信するために、学生が考えた料理レシピ集を作成しています。大学で学んだ様々な知識を活かして地域や社会に貢献するため、レシピコンテストへも積極的に挑戦しており、レシピ集には受賞作品等も掲載しています。工夫を凝らして創り出した献立をシリーズで紹介していきます。



『柚子ボーロ』

坂戸キャンパスに近い越生町主催「越生うめ・ゆず料理レシピコンテスト」の受賞作品を紹介します。コンテストでは越生町の公民館で実際に作り、試食審査が行われました。終了後、越生町の方々との交流を楽しみました。

●材料 (2人分)

卵黄10g、三温糖20g、片栗粉40g、柚子50g

●作り方

- ①オーブンを予熱で160℃に温めておきます。
- ②柚子の皮をそぎ、できるだけ細かく刻みます。
- ③柚子の果汁をしぼります。
- ④材料を全て混ぜ、1cm前後の大きさのボールに丸めます。
まとまりにくい場合は、水、片栗粉を調節しながら加えます。
- ※水分が多すぎると、焼いているうちに溶けてしまうので注意してください。
- ⑤オーブンで20分前後焼きます。焼き目はつかなくても大丈夫です。

学生コメント

笠井さん(10期生)

大人から子供まで親しめるお菓子です。世代をこえたふるさとの味を、ぜひ親子で作ってみてください。今回の味は少し大人向きになっています。作っていく中で、果汁、砂糖、はちみつなど、味をどんどん変えてみてください!



コンテスト参加者たち

栄養素	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	食物繊維 (g)	食塩相当量 (g)
計算値	128	0.9	1.7	27.3	13	0.5	0.4	0

*このレシピやレシピ集に関しては、広報センターまでお問い合わせください。
☎ 03-6238-1240 (月～金/10～17時)

JOSAI・JINZAI

創立以来、城西大学は「学問による人間形成」を建学の理念として、多くの人財を社会に送り出してきました。城西大学で「学び」、「教え」、「育ち」、「社会貢献」への道を日々歩み続けている、在学生や留学生、卒業生、教職員たちをシリーズで紹介していきます。

志を持ち日本で学ぶ ～ハンガリーからの留学生～

城西大学は国際交流が盛んで、多くの留学生を積極的に受け入れています。今回は経営学部のメディア論講座を受講したハンガリーからの留学生2人に、日本留学への思いや将来の夢などを語ってもらいました。

ヴィツタイ・ドミニカさん 経営学部/2012年4月入学留学生 報道レベルの高さを感じた

ヴィツタイさんは、コルヴィヌス大学から来ました。ハンガリーの大学では経営学部でメディア論を学べる所は無く、珍しく思い受講しました。多彩な講義の中でも、写真報道の話が特に魅力的でした。日本の報道は、ハンガリーと比べて客観性や正確



ヴィツタイさん(右)とレレカーチさん

さに留意しており、レベルの高さを感じました。

将来の夢は起業、通訳・翻訳・コンサルタント会社を立ち上げることです。家族が英語の通訳・翻訳会社を営んでいるので、更に日本語の部門を付加する事もできます。拠点はハンガリーに置きながら、年に数回は日本を訪れ交流を継続していきたいと考えています。

レレカーチ・タマーシさん 経営学部/2011年9月入学留学生、 2012年9月帰国

両国の懸け橋になりたい

ブダペスト商科大学から来たレレカーチさんも、やはりメディア論に興味を持ち受講しました。ハンガリーで日本語を教えてくれた先生が素晴らしい方だった事も、留学動機の一つです。

写真報道の講義を通し、取材し写真を撮り続けて、現地とずっと関わりを持ち続ける日本のメディアの姿勢が素晴らしいと感じました。

将来の夢は、通訳・翻訳関係の会社の起業ですが、大使館の仕事や既存の大きな会社での仕事にも魅力を感じています。ハンガリーに帰国しましたが、今後も日本とハンガリー間を行き来して、両国の懸け橋になりたいと考えています。

学生のために 活きた図書館づくりを ～水田記念図書館スタッフ～

城西大学の水田記念図書館は居心地が良く、大勢の学生に活用されています。図書館スタッフのリーダーとして広範に活躍している若生政江事務長と、次代のリーダーとして現場を支え企画をディレクションしている関口千登世さんの2人を紹介します。



若生事務長(左)と関口さん

多彩な企画を実行中

図書館の三つの使命、「学生支援・研究支援・地域貢献」をより良い形で実らせるため、2人は2008年頃より様々な改革や新規プロジェクトを、スタッフや関係者と共に実行しています。

就職課と共に学生の就職活動を支援する企画や、学生の勉強や読書に役立つイベント、地域の図書館や施設と連携した公開講座の開催など、活動は多岐に渡ります。

図書館は地域の方々にも開放しています。大学という教育研究施設の図書館として、研究成果などを社会に役立つようアーカイブとして整備。活用しやすいシステム構築やデータのバックアップ体制などの整備も進んでいます。図書館のホームページも充実しているので、アクセスして多彩な活動内容や城西の研究成果などの情報に触れてみてください。

<http://libopac.josai.ac.jp/>



図書館内観

図書館をより良く改革していくため、2人は地域の図書館さらには他大学ともネットワークを構築し、共同での研修や活動等にも参加しています。

「学生たちを大切に育める場づくりをしたい」「地域や社会に貢献できる組織になりたい」という強い願いが、2人にとってパワーの源のようです。

学生や教職員のサポートに支えられ、約43万冊の蔵書と年間約24万人の利用者がいる図書館を運営していくべく、2人の奮闘は今後も続いていきます。

ニュース

社会に生きる城西

社会に繋がる各学部の活動や、国際交流活動などをご紹介します。

経営学部 新聞社と提携して『メディア論』始動

前期：2012.4.11～7.18

記者を講師に多彩な内容

経営学部では、毎日新聞社との提携講座として実践的なカリキュラム「メディア論I・II」が2012年4月から始まりました。毎週水曜日に、各分野の第一線で活躍する毎日新聞の14人の記者が講師となり、オムニバス形式で、以下のようなアップツーデートなテーマで講義を行いました。

- 第1回 「新聞の役割」
- 第2回 「女性とジャーナリズム」
- 第3回 「震災と報道写真」
- 第4回 「ソーシャルメディアとは」
- 第5回 「虐待とメディア」
- 第6回 「震災報道1年」
- 第7回 「地域面の役割」
- 第8回 「選挙制度と民主主義」
- 第9回 「異文化理解と報道」
- 第10回 「新聞と新媒体戦略」
- 第11回 「皇室報道の読み方」
- 第12回 「真実の中国報道」
- 第13回 「オリンピック報道の裏側」
- 第14回 「芸能記事とは」

そして前期最終の第15回目の授業では、受講者全員がニュース検定を受けました。

前期の履修者数が650名となり(9月からの後期は600名)、通常の教室では収容できないため、講堂の清光ホールで授業を行いました。記事はどのようにして作られるのか、報道記事から社会がどう読みとれるのか、報道の役割とは何か、など大スクリーンを活用しての多彩な授業内容に、学生達は真剣に聞き入っていました。前期講義修了後、履修している経営学部3年の女子学生4人に、講義に関する感想や経営学部の志望動機などについて聞きました。また講座担当の草野素雄教授から、授業の意義や目的などについてコメントを貰いました。



講座講師と解説する草野教授



受講した女子学生(左から青木さん、青山さん、上條さん、関根さん)

学生コメント

青木芳恵さん 自分もフェイスブックなどをやっているの
で、「ソーシャルメディア」の講義が一番親近感が持て、インターネットの利点とマイナス面などが理解できました。高校時代から「経営」に興味がありましたが、医療系事務の仕事に就くことなども視野に入れて勉強しています。

青山和美さん 「ソーシャルメディア」と「写真報道」の
講義が興味深かったです。ソマリアの写真など、自分の日常とかけ離れた社会を知ることができました。将来インテリア系の店を開業したいので、そのために経営戦略などについて今、しっかりと勉強したいと考えています。

上條絵理さん 東北には行った事があるので、「震災と
報道写真」の講義では、色々と考えさせられました。子供の頃から菓子メーカーで働きたいと思っていて高校の先生に相談したところ、経営学部への進学を勧められました。今もその夢を持ち続けています。

関根智美さん 「報道写真」の講義が心に残りました。
記事に写真があると内容がより分かりやすくなります。難民の子供たちの笑顔の報道写真には胸を打たれました。将来はブライダルプランナーなど、人と人の繋がりをつくるような企画が立てられる仕事に就きたいと考えています。

草野素雄教授コメント

これほど多くの履修者が集まったということは、若者がメディアに関心を持っている証左であり、メディアの将来像を描く際に大きな意味を持つのではないのでしょうか。また大学のカリキュラムを再構築する一つのきっかけになる気がします。新聞記者の話は、学生たちの価値観や人生観にポジティブな影響を与えてくれることでしょう。

お薬あれこれ 遊んで学ぶ

城西大学薬学部薬学会の学生が中心となり『みんなでお薬かるた』を作成しました。これは、薬学部医療栄養学科の学生サークルDHAが先に作成した「みんなで栄養かるた」に続くもので、今回は医薬品の正しい使い方や薬の重要性と危険性に関して、遊びながら自然に学んでいただくことを目的に作成しました。

読み札・取り札を薬学部薬学会の1・2年生が、解説書を薬学科の5年生が担当し、薬剤師の資格を持つ准教授の沼尻幸彦先生と助手の大島新司先生が主に助言を行い、共同作業にて完成しました。

「お薬かるた」には、ドラッグやタバコのことも盛り込まれています。危険だからと目を背けるのではなく、その危険性についても伝えていくことが大切との考えのもと、薬物の乱用防止や医薬品の



作成に携わった学生たちと先生

適正使用について、更にはこれらの活動に深く関わる「薬剤師の役割」についても盛り込まれています。

2012年4月より新しい中学校学習指導要領が全面実施されました。この新学習指導要領の中でも保健分野の目標においては、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。」とされており、「医薬品の正しい使い方教育」が新たに盛り込まれました。「お薬かるた」は、これらに関連し対応できるような内容を一部盛り込んだので、小・中・高等学校など学校教育の現場で使用してもらいたいと考えています。更には、各ご家庭や地域の活動の場などでも使用してもらい、未来を担う子供たちに向けた社会全体での「医薬品の正しい使い方教育」に、少しでも役立てたいと願っています。

また、この作成に携わった学生たちにとっては、このような一つの大きなプロジェクトを共同作業にて達成させたことが、自信を持って主体的に学ぶ力やコミュニケーション能力の育成に繋がりました。今後は更に、学生たちのアイデアにより「お薬かるた」の活用方法が広がっていくことが期待されます。

*かるたの内容や入手方法などに関しては、広報センターまでお問い合わせください。 ☎ 03-6238-1240(月～金/10～17時)



お薬かるた

とことん英語 異文化理解も

夏休みにマレーシアで英語漬けになる——そんなユニークなプログラムが、9月1~16日の約2週間の日程にて実施されました。東南アジアのマレーシアというと、リゾート地で熱帯の国というイメージがまず浮かびますが、実は経済・産業が発展しており英語が共通語として使われ、グローバル人材の育成には最適な国です。そこで城西では、学術交流協定を結んでいるUTAR (Universiti



授業の様子



UTARの学生たちとの交流

Tunku Abdul Rahman 略称:ラーマン大学)で英語研修プログラムを実施しました。

総勢90名が、この研修に参加しました。内訳は、城西大学の経済・現代政策・経営・薬学の各学部と短期大学さらに大学院の学生が75名、そして姉妹校の城西国際大学からの15名です。

研修では、UTARの英語教員が主体となり授業を行いました。授業は英語レベル別に五つのクラスに分かれ、ゲームの導入や積極的に全員が発言する形式など、様々な工夫がされていました。学生たちはハードなスケジュールながらも楽しみながら授業を受け、英語力を大いに高めることができました。その他、観光局のペラ州局長の招待による晩餐会でペラ州の地域振興について学んだり、UTARの学生たちとの様々な交流イベントを行ったりと、多彩な国際交流活動も体験してきました。

このプログラムは、学生たちの英語力と異文化理解の向上に寄与し、城西のグローバル人材育成と国際交流活動に繋がるものとして、今後も更に充実し発展していくことが期待されます。

ニュース

城西人の活躍現場から

各学部やクラブの活動、地域や社会と連携・貢献している活動などをご紹介します。

理学部化学科 『オープンデパートメント』開催 2012.5.24~6.2

最先端の化学を紹介

城西大学の理学部化学科では、物質科学に基礎を置き、化学とその関連分野～自然科学や情報科学・環境科学などを広く学べるカリキュラムのもと、しっかりとした基礎力に支えられ化学的な思考力を持ち社会に貢献できる人材育成を行ってきました。その着実な実績と成果に加え、J-Visionに基づき2012年度から新任の先生7人による新展開が始まりました。物質・情報科学、合成化学、生命化学にまたがる最先端の化学の学びや研究が拡大・充実したのです。

化学科では、その内容を多くの学生や関係者に伝えるべく、2012年5月24日(木)～6月2日(土)にかけて城西大学水田美術館ギャラリー2で、新しい教育・研究分野を紹介するパネル展示「オープンデパートメント」を開催し、5月24日(木)には担当教員がその場で来館者に説明を行いました。

その新展開とは——「化学を基礎にした新しい技術を開くナノテクノロジー」「環境に優しい有機物質の多彩な機能を活かした先端材料」「日本社会が直面するエネルギー問題解決に寄与する新エネルギー」などの最先端分野における展開です。難しそうな



オープンデパートメント会場風景



解説パネル

イメージがありますが、実際に先生たちの丁寧な説明を聞くと、いずれも日常生活においてよく使われているものであったり、現在の社会が直面している様々な問題解決に繋がる、身近で必要不可欠な研究内容であることが良く分かります。会場では多くの学生たちが、真剣に説明を聞きパネルを熟読していました。

化学の基本はものづくりですが、その内容は近年さらに深く広くなってきており、現代社会を支えています。化学科では化学を基礎においたこれらの先端分野を通してきめ細かな教育による人間形成を行い、社会に有為な人材を育てていきます。なお新教員や新しい展開に関しては、化学科の最新パンフレットやホームページ(<http://www.josai.ac.jp/kagaku/>)でも詳しく紹介していますので、ぜひ奥深い世界に触れてみてください。

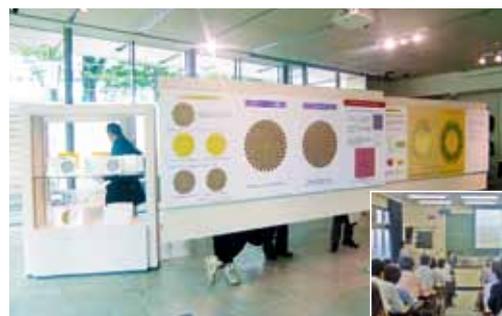
理学部数学科 『錯視展』開催 2012.5.8~6.16

数学で探る視覚の不思議

理学部数学科では、2012年5月8日(火)～6月16日(土)にかけて、水田美術館ギャラリー3にて『錯視展』を開催しました。視角が起こす錯覚のことを錯視といいます。無いものが在るように見えたり、止まっているはずの文字や絵が動いて見えたりしたら、それは「錯視」かもしれません。19世紀に始まり、我が国でも20世紀後半から活発に進められている錯視現象の科学的な研究。本展は数学からのアプローチに注目し、視覚認識のメカニズムを数学的アルゴリズムで解き明かす最先端の数学領域における研究を紹介するとともに、錯視を体験できる多彩な図画パネルを展示しました。また来場者の方々に、同心円が渦巻きに見える「フラクタル螺旋錯視」とまっすぐな文字列が傾いて見える「文字列傾斜錯視」の見え方に関するアンケートに参加してもらいました。アンケートの集計結果は、今後の錯視研究に反映されていきます。

さらに関連企画として、『講演会×対談:数学で探る錯視のしく

み—数理視覚科学への誘い—』を、6月2日(土)に本学で開催しました。東京大学大学院数理科学研究科の新井仁之教授を講師として招き、講演後に新井教授と本学理学部数学科の中村俊子准教授とで対談を行いました。会場は、一般来訪者の方々と本学の学生たちや関係者など約80名でほぼ満席となり、参加者たちは人間の脳の不思議とそれを解明する数学の面白さについて、興味深く聞き入っていました。今回の企画は、数学科と美術館が共同して進め、学生や地域の方々に美術館を活用頂きながら、数学をより身近なものとして体感頂けるユニークな展示となりました。



展示された錯視パネル

満席となった講演会場

集団生活で仲間と相互理解

2012年5月27・28日の1泊2日で、埼玉県熊谷市のホテルヘリテージリゾートにおいて、経営学部フレッシュマンキャンプを開催しました。これは基礎ゼミに所属する学生が全員参加し、経営学部生として有意義に大学生活を送れるよう、集団生活を通して相互理解と友情を深めると共に、責任と自覚を持ってもらう目的で実施します。2007年より始まり今回で6回目を迎えますが、今回は経営学部1年生約540名が参加しました。

まず経営学部長の草野素雄教授からの挨拶後、「城西大学部活紹介」「学生インタビューと活動の様子」「OBインタビュー」のDVD鑑賞、経営学部学生会による城西大学学歌練習が行われ、1日目が始まりました。

次に、チームに分かれてホテル内オリエンテーリングが実施されました。辿り着いたチェックポイント毎にそれぞれの課題が用意されており、学生たちは、チーム全員でコミュニケーションを図り協力しながら課題に取り組むうちに、お互いの距離感が縮まり打ち解けていきました。その日の夜は、昼間観たDVDを参考に、基礎ゼミ毎に研修が行われました。各ゼミでは学生を更にグループに分け、「城西大学50周年記念エンブレム」のデザイン作成、「クリーンキャンペーン」「まちおこしキャンペーン」等の企画やキャッチコピー作



ゼミ別研修

制作した
エンブレム

成等の課題に取り組みました。その中より代表作を決定し、1日目の研修は終了しました。

2日目は、経営学部学生会スタッフの司会進行により、発表会を開催しました。各ゼミより、城西大学50周年記念エンブレムとキャンペーン企画及びキャッチコピーについての発表が行われました。草野学部長の講評後、表彰式が行われましたが、どのゼミも素晴らしい出来栄でした。

研修修了後の1年生は、1日目に会場に到着した姿とは別人のように明るく逞しくなり、これからの4年間に向けての意気込みが強く感じ取れました。たった2日という短い期間に、1年生たちは今後の大学生活の中で活かされる糧を得てくれました。今後も、様々な経験から新たな事を覚え、成長してほしいと願っています。また、このような研修は継続する事が大切であり、その中から運営する側も学び・成長していきたいと思えます。今回のキャンプにご協力いただいた関係者全ての方々に、心より御礼申し上げます。

心一つに踊りを披露

「応援しよう東日本!」をスローガンに『第12回坂戸よさこい』が8月18・19日の2日間、東武東上線坂戸駅～北坂戸駅東口までの10会場で開催されました。今年は県内外から106チームが参加しましたが、「城西大学経営学部」チーム43名も、19日に通算7回目の参加を果たしました。

1回目の演舞は仲町・本町会場で、経営学部学生会会長の猛暑に負けない熱い口上の後、揃いの衣装で独自に考えた曲と踊りを披露しました。2回目は東1会場でしたが、ここで初めて新調した旗をお披露目しました。3回目は中央会・サンロード会場、このコースは道幅が狭く曲がっており踊りづらいのですが、坂戸駅に近いこともあり例年多くの観客が声援してくれる会場です。予想どおり多くの観客からの声援があり、踊り子たちも気持ちが一つになり大いに盛り上がりました。4回目が駅北口通り会場での最終演舞となりました。演舞前に全員で円陣を組み、3年生の掛け声で気合を入れなおし、最後の演舞に臨みました。

今回のよさこいには、この祭りを最後に大学を去る学生や韓国に帰国する留学生も参加しました。この2人の仲間のため、そして

猛暑の中、
感動の舞い

坂戸市から日本を元気にするために心一つにして元気な踊りを披露し、応援に駆け付けたOB・OGや学生のご父母の方々や大学関係者そして観客の皆様から、大声援や手拍子を頂きました。

よさこいの曲と踊りは、よさこいリーダーと呼ばれる数名で作ります。その踊りを皆で覚えて一緒に練習し、目標の一つに力を合わせていかなければ、感動を与えるよさこい踊りは出来ません。チーム運営の難しさを勉強しながら、踊りを完成し披露できたという大きな達成感、参加学生の人生の糧になる事でしょう。

今回の「坂戸よさこい祭り」において、多くの関係者よりご理解ご協力を頂きました事、御礼申し上げます。皆様方の熱い声援に応え、来年は更なる成長が見えるよさこいの舞を披露したいと思います。

紀尾井町ニュース

法人本部および姉妹校の城西国際大学と共同で実施した事業をご紹介します。

JOSAIグローバル女性人材育成プログラム (JEWEL)

大連で研修を実施

学校法人城西大学は、城西大学50周年／城西国際大学20周年を記念して、『JOSAIグローバル女性人材育成プログラム (JEWEL) in 大連』を2012年4～5月に実施しました。

このプログラムは、城西が培ってきた「女性学」の研究成果や中国とのネットワーク等を活かしつつ、女性がグローバル社会で活躍する機会を提供し、国際的な視野やコミュニケーション力を養成することが目的で、女性のエンパワーメントや地位の向上、ワークライフ・バランスも研修テーマとなっています。

このプログラムのユニークな点は、参加対象が一般社会人および城西大学・城西国際大学大学院のうち「女性限定」ということ、さらに職種や雇用形態を限定しない不特定領域の社会人女性と大学院で学ぶ女子学生と一緒に参加し、それぞれの立場を越え「女性」として共有できる問題意識を明確にしながら多彩な交流機会を得ることにあります。

第一回目となった今回の研修参加者は総勢13名で、マスコミ・法律・企業など幅広い分野から社会人6名、城西・城西国際の職員が各1名、城西の大学院生2名と城西国際の大学院生3名という内訳

になりました。研修は事前・現地・事後と3段階に構成、東京紀尾井町キャンパスで事前研修を行った後に、中国・大連にて現地研修を実施し、帰国後に成果発表会を行いました。

現地研修は、2012年5月3～7日、5日間の日程で大連市を訪問しました。中国大連市と城西との交流の歴史は長く、今回の研修も、大連市人民政府、大連市婦女連合会、大連理工大学の協力を得て実現しました。具体的には、大連市政府の女性幹部や大連市の女性経営者など女性リーダーたちと活発な情報・意見交換会を行いました。また、大連理工大学では中国の若者や衣食文化に関する講義を受け、市場動向調査や施設訪問などフィールドワークにより、現代の中国女性文化について理解を深めました。

女性の社会参画が叫ばれて久しい環境の中、女性が自らのパワーを発揮できる意欲を養い、コミュニケーション力などを養成することを支援していく事が『JEWEL』の使命です。



大連市政府とのミーティング①
婦女連合会の集合写真②
成果発表会の様子③

連載

城西の未来創り

中期目標と50周年

学校法人城西大学は中期目標J-Visionを掲げ、50周年に向け、様々な事業や活動を展開しています。



城西の中期目標 (2011～2015)

日本、アジア、そして世界のリーディング・ユニバーシティへ



1. 豊かな人間性の涵養と社会に有為な人材育成
2. 国際性、専門性を備え、日本文化を身につけたグローバル人材の育成
3. 教育力の継続的向上と地域・世界と直結した連携教育の強化
4. 研究力強化とイノベーションの推進
5. キャンパス環境の充実とグローバル化・ネットワーク化
6. 教育、研究、社会貢献のダイナミックな展開を支える経営基盤の確立
7. 発信力強化と社会的存在価値のさらなる向上

鶴ヶ島市

伝統文化と自然が活きる市

鶴ヶ島市は、埼玉県のはぼ中央部、都心から約45 km圏内に位置しています。また、関越自動車道、首都圏中央連絡自動車道が交差し、交通の拠点となっています。

鎌倉時代には鎌倉街道、江戸時代には日光街道を中心に発展し、明治22年に鶴ヶ島村が誕生しました。昭和41年に町、平成3年には鶴ヶ島市となりました。急速な都市化でかつての農村風景は少なくなりましたが、市の西

部地域には、雑木林や農地があり武蔵野の原風景をとどめています。

市では、4年に1度行われる脚折雨乞や毎年11月に行われる高倉の獅子舞のような伝統行事から、市民の健康増進と交流を目的としたスポーツ・レクリエーションまで、数多くの市民参加のもと様々な行事を開催しています。

城西大学とは、平成19年から城西大学水田記念図書館と鶴ヶ島市図書館との連携による相互利用が続けられています。また、市内に城西大学駅伝部の宿泊所があるので、駅伝部のロード練習が市内で行われています。

東武線沿線情報

行ってみて、川越。 思い出作りに、ウォーキング



蔵造りの町並み

東武鉄道では年間を通して、東武健康ハイキングを開催しています。東武東上線では、11月23日(金・祝)に東武鉄道と東急電鉄の合同開催で、第338回 川越市市制90周年記念 蔵造りの町並みをめぐるウォーキング(全行程約6km)を開催します。

当日は蔵造りの町並みのほか中院や喜多院、川越城などを散策します。「小江戸川越」と親しまれ、どこか懐かしさを感じられる川越に、あなたの周りの大切な方を誘って歩きませんか。

ウォーキングイベントに限らず、川越へ行かれるみなさんに「小江戸川越クーポン」のご利用をおすすめします。小江戸川越を散策しようと考えている方にはまさにうってつけです。発売は東武東上線各駅で(川越、川越市、寄居、越生を除く)。※ただし、毎年10月の第3土曜日・日曜日に行われる「川越まつり(川越氷川祭り)」の日には使用できないのでご注意ください。

詳しくは、東武鉄道ホームページをご覧ください。



◎脚折雨乞
◎高倉の獅子舞

坂戸市

「坂戸の大宮住吉神楽」

～地域色豊かな民俗芸能を守り伝える～

坂戸市塚越にある「大宮住吉神社」は、中世以降、北武蔵12郡の総社として知られた由緒ある神社です。ここに伝わる「大宮住吉神楽」は、江戸里神楽の様式を伝える貴重な民俗芸能として、近隣の人たちに親しまれ



坂戸の大宮住吉神楽

ています。昭和52年3月に埼玉県無形民俗文化財に指定され、平成22年3月には、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。神楽は、2月23日の祈年祭、4月3日の例大祭、11月23日の新嘗祭で奉納され、神話を題材とした「12神楽」など、22の演目が受け継がれており、多くの市民やカメラマン等でにぎわっています。

特に、この神楽の特徴と言えるのが、演者が専門の神楽師ではなく、神社の氏子が組織する保存会によって伝えられているところにあり、採り物(道具)を持った神楽舞と、道化が活躍する黙劇仕立ての座を合わせ持つところとなります。ぜひ一度、周辺文化財の散策も兼ね足をお運びいただき、楽しいひとときをお過ごしください。

大宮住吉神社:坂戸市大字塚越241

■城西歳時記 2012年11月～2013年2月の、城西大学の主な行事(予定)を紹介します

2012.11. 2(金)～ 4(日)	高麗祭	1.21(月)	後期授業終了
12.14(金)	JUライトフェスティバル	1.25(金)	就職セミナー
12.25(火)～	冬期休業開始	1.28(月)～2.9(土)	学年末試験
2013.1. 7(月)～	授業再開		

編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2012年11月発行

